

# 『藤農便り』 第 11 号

宮本茶園 宮本 透 (自然文化誌研究会)

1 月に新規就農してからあっという間の 1 年が過ぎました。今年の秋は雨が多く、晴耕雨ネトの日々でした。晴れの日には富士山を眺めながら茶畑で黙々と作業し、雨の日には家でまったりと YouTube 鑑賞です。今期秋アニメは学園物に秀作があり、一押しは「Just Because!」。湘南に住む高校生たちの友情や恋愛を描いたアニメで、藤沢駅周辺や善行の田園地帯など懐かしい舞台風景を頭の中で聖地巡礼しながら楽しんでいきます。続いては「アニメガタリズ」、入学した高校のアニメ研究部を復活させるために個性豊かな部員を集め、生徒会の廃部攻撃を乗り越え部活動に取り組む 1 年生の物語です。彼らの学園生活は新入生が入らず廃部危機に悩みながら部室で過ごした探検部の思い出と妙に重なり合い、感情移入しながら応援しています。

## ・旧交を暖める

10 月下旬は懐かしい人たちと旧交を暖めました。今なお私と付き合ってくださいる友人たちに感謝です。10 月 21 日、中学校の同窓会に参加するため藤沢に帰りました。迎えてくれたのは竹馬の友のジュンリ君。彼は母方の遠戚にあたり、クラスが一緒になってからはいつもつるんで遊んでいました。母の旧姓は三嘴、藤沢市羽鳥の旧家で「明治時代初期に耕余塾という私塾を開設、神奈川県屈指の中等教育機関で総理大臣吉田茂や味の素創設者鈴木三郎助などが学んだ」と歴史書に記されています。一族には教員が多く、私も中学生の頃はご先祖様のような立派な先生になりたいと思っていました。こんな家系で育てられた 2 人は道を踏み外し、互いに親が嘆き悲しむ人生を歩んでしまいました。藤沢駅でゼンマスター・臨済宗老師のイノケン君と待ち合わせ、江ノ電に乗って会場の鎌倉プリンスホテルに向かいました。ヤクザのジュンリ・僧侶のイノケン・ホームレス然の私は目立った存在で、「お前ら相変わらず破天荒な格好しているな!」「発達障害 3 人組!」とからかわれました。母校の藤沢市立明

治中学校は校歌に「太平洋から吹く潮風を胸にいっぱい朝夕吸って」とあり、幹事団は還暦記念の同窓会会場に太平洋を見渡せる鎌倉プリンスホテルを選んだそうです。台風接近で大波の海原を背に旧友たちと肩を組み校歌斉唱した事は大切な思い出になりました。

27 日は学大特殊教育科先輩の北村小夜さんが訪ねてくれました。「障害児を普通学校へ・全国連絡会」世話人の北村さんはクラス仲間と取り組んだ特殊教育研究部の養護学校義務化阻止闘争からお付き合いが始まりました。私が教育労働者になってからは日教組の先輩となり「日の丸・君が代」強制反対を共に闘い、神奈川県教委から受けた「日の丸」処分撤回裁判には横浜地裁へ毎回傍聴に駆けつけてくださいました。てくてくてランチ、駅前の雑穀畑・和田と上岩の茶畑・八木の竹林・内郷の大豆畑を案内、お別れする時はすっかり日が暮れていました。手作りの着せ替え人形をお土産にいただき児童クラブの子どもたちは大喜び、優しい素敵な先輩です。

28 日は成合会、柴田君の呼びかけでいつもの仲間が集まりました。中込君と横山さんは来る 3 月に定年退職、老後人生の話題で盛り上がりました。1984 年から途切れることなく続く探検部の同窓会、大切にしたいものです。

## ・秋の茶仕事

夏の間ひたすら草取りに汗を流した茶畑、9 月になって秋肥を施しました。鶏フン・油カス・苦土石灰を合計 1 t 半、3 週間にわたり袋を担いで急斜面を登り畝間にまきました。施肥が終わると中耕、さらに 3 週間アグリズで購入した手打ちの 3 本グワで 5 反の茶畑を耕し続けました。冬に敷いた竹チップやカヤはフカフカな土になり、ところどころにキノコが生えています。まさに土は生き物だと実感できました。10 月中旬からは長雨と台風に悩まされながら整枝作業を行いました。藤野に移住し茶栽培に取り組んで 3 回目の秋整枝、「石の上にも三年」を実感、作業にだ

いふ慣れてきました。

10 月 19 日は第 2 回藤野茶業部会議、25 日は整枝剪定講習・茶園巡回指導がありました。部会で品評会結果が報告され、煎茶加工でお世話になった高梨茶園は 194 点の 5 位、私は 156 点でした。巡回指導で第 50 回神奈川県茶園共進会の出品茶園に上岩の畑を選んでいただきました。



(共進会出品茶園)

茶業部の先輩方からクワで中耕した事を「根性あるな」とほめていただき嬉しくなりました。

11 月 13 日、山北町にある神奈川県農協茶業センターの視察研修会がありました。2010 年 3 月に吉田島農林高校を異動になって以来の足柄訪問、茶業センターには教え子が勤めていて久しぶりの再会に感激しました。茶業センターを後にして山北・松田の茶園視察、きれいに手入れされた足柄の茶園はお手本にしたいと強く感じ入りました。



(山北町茶園視察)

松田町寄地区の市民がかかわる茶園管理は佐野川のモデルになり得るもので興味を持ちまし

た。

煎茶は古い友人を訪ねて行商、さらに日連のてくてく・篠原の里カフェ・三ヶ木のまあさの家・西原のびりゅう館で扱っていただいています。11 月は観光協会の藤野観光まつりとシュタイナー学園の藤野まるまるマルシェに参加し、試飲販売いたしました。イベントの対面販売でお客様と会話して気付いた事は、藤野が足柄茶産地だと知らない方が意外に多いことです。来年は栽培とともに普及活動にも微力ながら尽くそうと思います。

### ・津久井在来大豆収穫

6 月に播種した津久井在来大豆は順調に生育し、9 月末にエダマメを収穫。もぎたてのエダマメを塩ゆでして食することは栽培者の特権で、市販のエダマメでは味わうことができない濃厚なおいしさを堪能しました。10 月半ばには硬くなり、賞味期間は 1 週間から 10 日程のようです。

内郷の畑は 11 月 12 日に刈り入れました。草子農園サポーター総動員の作業、役割分担して刈り払い機で茎を切りビニールシートの上に並べ乾燥させていきます。



(大豆刈り入れ)

茶色に完熟したサヤはパンパンと音を立てはじけるものがあり、青いビニールシートに白い豆が転がります。青・白・茶の絶妙な色の対比を楽しみました。天日で乾燥させた大豆は 11 月 25 日に脱穀、みんなで茎を運び農協から借りた脱粒機にかけましたが半日がかりの仕事になりました。



(大豆の脱穀)

積み上げられた大豆殻は、翌日 3 回に分けて上岩に運び茶畑に敷きました。半年間お手伝いした大豆栽培も無事終了、来年は雑穀街道の活動と絡めて藤野で取り組みたいと思います。

### ・ミレット 藤野雑穀栽培講座

昨年アワ・ヒエ・シコクビエはスズメの餌場と化しモロコシ・ハトムギしか収穫できなかったため、今年は早めに防鳥ネットを張り巡らしましたが、またしてもスズメの襲撃を防げずキビの穂は丸坊主にされてしまいました。夏秋は天候不順でしたが他の雑穀は元気に育ち、9 月 24 日の第 4 回講座で収穫することができました。

10 月の収穫作業は雨天中止、11 月 19 日の第 5 回講座は西原で実施しました。午前中は中川さんの指導で雑穀の穂を木槌でたたいて脱穀しました。



(雑穀脱穀)

唐箕の扱い方を習い納屋にあるたくさんの雑

穀を見学し、参加者は有意義な時間を過ごしました。びりゅう館に移動して水車見学、昼食は特注雑穀ランチです。増田先生の講義の後は雑穀の村復活プロジェクトメンバーと第 2 回雑穀街道交流会を行い、西原の活動報告を聞き、今後の活動へ向け意見交換しました。



(第 2 回雑穀街道交流会)

12 月 3 日の第 6 回講座は越野さんの雑穀料理教室・試食会でした。ヒエの具沢山スープ・ヒエのフィッシュフライ風・ウルチアワと野菜の炒め物・モチアワとサトイモの酒粕グラタン・モチアワとリンゴの薪ストーブ焼き、駅前畑で収穫し西原で脱穀した雑穀を使った贅沢な料理です。



(雑穀料理教室)

「モタレナイけれど腹持ちよい、夕飯は軽めにしました」との感想もあり好評でした。ミレット 藤野雑穀栽培講座は無事終了、折しも 11 月 27 日付毎日新聞神奈川版に「雑穀街道 世界遺産目指し」の記事が掲載され、来年も藤野で雑穀栽培を担う決意です。